

私のおじいちゃんは調理師で飲食店を営んでいる。そして今年七十六歳になった。小さい頃は、おじいちゃんと二人で車で仕入れに行ったり、保育園の送迎をしてくれたりしていた。学校が休みの日で、私ที่บ้านにいる時はこの間まで仕入れについて行っていた。

去年の一月。おじいちゃんは持病の心臓が悪くなり、心不全を起こした。突然のことでもびっくりした。みるみる苦しそうになりもうダメかと思ったが、数ヶ月の闘病生活をのりきり、何とか命は助かった。家に帰って来て、徐々に体調も回復し、仕事にも復帰した。

そんなある日、いつも通りおじいちゃんの運転で二人で仕入れに行った。あれ、おじいちゃんの運転いつもは安心できていたのに、今日はおかしいなあ。めちゃくちゃ、運転しにくそうだなあ・・・と思い、おじいちゃんに声をかけた。

「おじいちゃん、大丈夫？」

おじいちゃんは、

「大丈夫なんじゃが、ちょっと光が眩しくて見えにくいんよ。」

と言いながらゆっくり運転してその日は無事に帰った。帰ってすぐに、家族皆にそのことを話した。話し合った結果、お母さんもおばちゃんも病気をしていたから感覚が鈍ってるのかもしれないが、もう歳だから次の更新までに免許返納をさせることを考えさせないといけないという結論になった。それから私たち家族は全力でおじいちゃんを説得しはじめた。

テレビをみていると高齢者が事故を起こしたと言うニュースが度々報道されている。アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故や歩行者を巻き込んでの死亡事故。反対車線を走ったりと普通では考えられない事故が起きている。事故が起きる原因は色々なことが重なって起こっているのだが、ニュースを見る度に家族や知り合いの人などが運転するのをとめてればこんな事故は起きなかったのではないかと思う。

人それぞれ色々な理由があって運転しているはずだ。車はとても便利だし、ないと生活ができないと言う環境の人もいると思う。家から駅やバス停まで歩いて行くより、車なら時間に関係なく好きな時に行きたい所に行ける。行きたい場所が公共交通機関から最寄りの所でない場合もある。家族や知り合いが近くにいれば乗せてもらうこともできるが、いつもという訳にはいかないし、そういう環境が常にあるとは限らない。自分は若い頃と何一つ変わらず大丈夫だと思って運転している人もいるだろう。でも、やはり事故を起こしてからでは遅い。人を傷つけても、自分が傷ついても当事者だけでなく、家族などを含めると多くの人が心を痛め後悔する。今まではできていたから大丈夫と思う過信は凶器になると思う。

家族みんながそれぞれおじいちゃんとお話をしたけど、なかなか「うん」とは言わなかった。この話の時のおじいちゃんの口ぐせは、

「バカなことを言うな！まだ大丈夫じゃ！何年車に乗っとると思っとるんじゃない！」でした。確かにおじいちゃんの思いも分かる。私も色んなところに連れて行ってもらった。おじいちゃんの運転で出かけられないのは寂しいが、でもやっぱり命にかかわることだから何かがあつてからでは遅い。せっかく助かった命。もしもの事故で・・・と思うと怖くなり、全力でやめさせようと思った。

何度も話あつた結果、おじいちゃんは私たち家族の思いを受け入れてくれた。おじいちゃん自身も病気の後のブランクで少し自信を失っていたようだ。おじいちゃんには私にこっそりとその胸の内を教えてくれた。自分で車を運転できたら家族に迷惑はかからないが、事故をしたんじゃない意味がない。歳をとったら視力も低下し、視野も狭まってるし、反応も遅くなつてると自覚していたそうだ。

免許返納をする日、警察で、

「本当に免許返納してもいいんですね？」

と最終の意思確認をされた時、迷わず、

「はい、免許返納します。」

と力強く言つたおじいちゃんはいさぎよかつた。力強い返事を聞いて、私はこれでおじいちゃんが悲しい事故を自ら起こすことはないと思うとほっとした安心感と同時に、私が免許を取つたら今度は私の安全運転で交通ルールを守りながら、恩返しとして色んなところへ連れて行ってあげようと心に誓つた。

免許返納するにあつて人それぞれ事情があると思う。一人でも多くの人が交通事故故によつて加害者にも被害者にもならないためにも自ら決断できる社会環境を整えれば良いと思う。